

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-5  
環境保全の推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

農産園芸課長 鳥屋尾 健史

電話番号

0852-22-5123

事務事業の名称	資源循環対策推進事業	
目的	(1) 対象	耕種農家、畜種農家、関係機関及び団体
	(2) 意図	農業分野での環境負荷軽減・資源循環の推進
事業概要	<p>【農業用廃プラスチック適正処理】</p> <p>○農業用廃プラスチックの適正処理を図るため、島根県農業用廃プラスチック適正処理推進協議会の開催及び地域協議会等への指導・助言を実施。</p> <p>○地域協議会等の関係機関に対して、適正処理に係る研修会及び試験を実施し、農業用廃プラスチックリサイクル処理推進員を養成。</p> <p>【たい肥利活用】</p> <p>○家畜排せつ物の循環の観点から、良質たい肥の製造と利活用の推進を図るため、たい肥成分分析やたい肥マップ（県HP掲載）の更新等を実施。</p>	

## 2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
1	指標名 農業用廃プラスチックリサイクル率	目標値		85.0	85.0	85.0	85.0	%
		取組目標値						
	式・定義 リサイクル量/回収量	実績値	84.9	81.3	92.1			
		達成率	-	95.7	108.4	-	-	%
2	指標名 エコファーマー認定件数の累計（平成24年度以降）	目標値		2,306.0	2,391.0	2,477.0	2,563.0	人
		取組目標値						
	式・定義 平成23年度末のエコファーマー数に平成24年度以降の新規認定数を累計したもの	実績値	2,211.0	2,340.0	2,398.0			
		達成率	-	101.5	100.3	-	-	%

## 3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費 (b) (千円)	352	513
うち一般財源 (千円)	352	513

## 4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 県下すべての地域（10地域）に地域協議会等が設置され、これを通じた農業用廃プラスチックの回収及び処理が行われている。
- 農業用廃プラスチックのリサイクル率 H26：78.2% → H27：84.9% → H28：81.3% → H29：92.1%
- 農業用廃プラスチックリサイクル処理推進員の人数 H26：129名 → H27：135名 → H28：142名 → H29：146名
- 堆肥マップの掲載データ H29年度末現在：74件

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 農業用廃プラスチックリサイクル率は前年度比で微減となったが、これを向上させるべく現場で分別指導等に当たる「リサイクル処理推進員」については新規認定者及び認定更新者を合わせ、順調に増加している。
- たい肥マップ掲載のたい肥について、耕種農家が利用しやすいよう隠岐・東部地区を対象とした成分分析を実施。掲載内容のブラッシュアップを図った。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- 農業用廃プラスチック処理は、全ての地域で地域協議会等を通じた適正処理の推進が図られ、組織的な回収の取り組みは定着している。しかしリサイクル率が90%以上で定着するか今後の動向に疑問もある。

### ②困っている状況が発生している「原因」

- 農業用廃プラスチックリサイクル率は多くの地域で100%若しくはそれに近づいているが、従来より2地域（奥出雲・石西）が低く、当該地域の率向上が図られないため。

### ③原因を解消するための「課題」

- リサイクル率が低い地域において、引き続きその向上を意識してもらうことが必要。特に回収時における分別が正しくなされていないとリサイクルが進まないため、その点の意識醸成も重要である。
- たい肥を利用する耕種農家への情報提供や、掲載内容の充実を引き続き図っていく必要がある。

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 農業用廃プラスチック処理については、特にリサイクル率が低い地域を主として、リサイクル率の向上に向けた意識醸成のための指導・助言を行う。また、例年実施している農業用廃プラスチックリサイクル処理推進員の認定・更新のための研修の場において、分別及びリサイクルの意識醸成を積極的に実施していく。
- たい肥マップについては、掲載内容のブラッシュアップを引き続き図ることで、良質たい肥の利活用をさらに推進していく。また、環境保全型農業直接支払交付金についてたい肥の施用が交付対象取組となっていることから、当該事業と連携を図りながら、たい肥の利用促進を図る。

事務事業評価シート別紙(3以上の成果参考指標がある場合のみ記載)

事務事業の名称	資源循環対策推進事業
---------	------------

成果参考指標の目標(実績)

項番	成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
3	指標名	環境保全効果の高い営農活動のうち「堆肥の施用」が行われた面積	目標値		565.0	633.0	709.0	795.0	ha
			取組目標値						
	式・定義	環境保全型農業直接支払交付金のうち「堆肥の施用」の取組面積	実績値	505.0	524.2	560.5			%
			達成率	—	92.8	88.6	—	—	
4	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
5	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
6	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
7	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
8	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
9	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	
10	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						%
			達成率	—	—	—	—	—	